

トヨトミ1日1点 夏季休業

# NIB

frontline  
フロントライン



カトーコーポレーション社長  
**加藤 洋三氏 (56)**

# 農家への感謝 忘れず

—自社や業界の現状は。

「本社の農業関連資材販売部は農家に出向き、肥料や農薬、資材の注文をいただき配達している。果物を中心に関東方面の市場に出荷している。小売店は農業資材販売の農家の店トマト4店舗、農産物直売のファーマーズマーケットトマト3店舗。農業者の減少により市場は縮小傾向だがコスト削減、省力化、高品質化、オリジナル化を追求すれば、まだ伸びしきがある。最近は包装を工夫する農家が増え、包装資材の取り扱いが伸び、家庭菜園をする人が増えて種・苗木も売れている。ホームセンターでは満足できない層に来店していただいている」

—産直の売り上げが伸びている。

「おいしさを求めてトマトに来店する方が多く、生産者も品質を重視している。農家にファンが付くのが産直の良さ。農家の収入が増えれば、後継者もでき、将来につながる。そうすれば県産農産物の評価が高まり、農業も良い方向に進む。『また来たい』と思つてもらえる魅力ある店、人をつくることが必要。接客する声のトーン、表情も大事だ」

—求める人材、能力は。

「笑顔で明るいあいさつができる人、人に寄り添うことができる人だ。『農家を元気にしたい』という思いを持ち勤務してほしい。当社は農家がいるから商売ができる。農家の感謝を忘れてはいけない。感謝の気持ちを自然と表情、言葉に表せる人であつてほしい」

★加藤 洋三氏 (かとう・ようぞう) 岩手大農字部卒。肥料会社の清和肥料工業(大阪市)で3年間勤務し、1989年、加登屋(現カトーコーポレーション)入社。専務を経て2010年から社長。上山市出身。★カトーコーポレーション 1953(昭和28)年に加登屋商店として創業。77年に加登屋として株式会社化し、92年に現社名になった。肥料や農薬、農業関連資材などを販売するほか青果など農産物の流通業務も手掛けている。95年に農業資材専門店「農家の店トマト」を開店し、現在は中山、東根、高畠、上山の4店を開設。99年には農産物直売所「ファーマーズマーケットトマト」を始め、現在は中山、天童、上山の3店がある。従業員数74人。資本金4,800万円。本社所在地は上山市阿弥陀地星田705の1。

## 私と新聞

### 県内の状況細かく知る

加藤洋三社長は「地元の情報を把握するために新聞が必要だ。取引先では社員が新聞記事を取り上げ、トピックとして話すことがある。農業関連の法律は頻繁に改正されるため、「それを知るためにも新聞は欠かせない情報収集ツールだ」と指摘する。

山形新聞に対しては「農家が頑張る姿を多く取り上げてもらいたい、ありがたい」とする。7月豪雨の被害を報じた今年7月29日付の紙面は忘れられないといい、「テレビは河北町や大石田町を中心になどに報じていたが、紙面で被害が広範囲に及んだことを知った。衝撃的な写真だった」と語る。被災した取引先には見舞いに駆け付けた。「県内の状況を細かく知るにはやはり新聞でないといけない」と実感した」と語った。

がそろつた。純米は多様な原料米が使用され、個

東北地方には全国トップ

級の技術を持つ杜氏が

△吟醸酒の部△秀鳳酒造場

トト

り。

（菅原武史）

【コロナ下の自動車産業】 2020年度上半期(4~9月)の国内新車販売台数は、新型コロナウイルス流行による需要と大幅に減少した。ただ、トヨタ自動車を中心に直近で自動車各社の生産は回復傾向にある。20年9月中間連結決算は、三菱自動車が4~6月期から赤字幅を拡大させる一方、北米が好調なSUBARU(スバル)が黒字転換するなど明暗が分かれた。

週刊 経済ワード

=毎週金曜日に掲載します